



A L P S CAREER

<シリーズ連載：今求められるキャリア開発 第32回>

自然の中に見つけた 私のライフワーク

自然との出会い

私が住んでいる高島市マキノ町は滋賀県でも琵琶湖の北西部にあり、山を越えれば福井県という自然の豊かなところがあります。特に私の家は山の麓にあり、中学生の頃から父親の山仕事について行っていたこともありますから、今更「自然との出会い」でもないのですが、改めて自分から自然について学ぼうと思ったのは38歳にもなつてからのことでした。

この大きなきっかけになったのが平成2年4月から平成5年3月までの東京での3年間の生活でした。

当時東京では休日になるとよく職場の仲間誘われて東京近郊の山に登りました。登ると仲間は自然の中で育った私よりもずっと植物について詳しく改めて感じましたものです。滋賀県に帰れば家のすぐ裏に山があり、子どもの頃から自然の



谷口 良一

滋賀県商工観光労働部
観光交流局観光室長

【たにぐちりょういち】昭和32年滋賀県高島市マキノ町生まれ。昭和56年滋賀県庁入庁。福祉、福利厚生、市民活動支援、観光振興等に従事、平成2年4月から平成5年3月まで(財)地方公務員等ライフプラン協会に勤務。現在、マキノ自然観察倶楽部事務局長、マキノ里湖体験ツアー協議会会長。

中で暮らしながらそんな知識はなく、羨ましく思ったものです。滋賀県に帰れば自然の中で毎日でも植物の観察ができる、帰ったらきつと植物の名前を覚えようと思つたことが、単純ですが、それからの自分の生活を大きく変えていくきっかけになった出来事でした。

滋賀県に帰り、自然について学ぶ機会は、平成6年にやってきました。滋賀県自然保護協会が実施する「自然ふれあい指導員養成講座」です。この講座を修了するとさらに知識を深めようと、日本自然保護協会が実施する「自然観察指導員講習会」を受講しました。資格を取得しても翌日から植物の名前がすらすらと出てくるものではありませんから、野外での自然観察会に参加し、通勤電車の中で植物の名前を覚えることが日課となりました。

大きな転機は、平成8年に訪れました。

地域への愛着心

ちようど平成8年、当時のマキノ町役場では花の山で有名な赤坂山のガイドブックを自分たちで作る編集委員の募集をしていました。赤坂山は私の家の裏から続く標高823・8mの山で、春から秋にかけて花の種類が多いことから近年中高年のハイカーが増えている山です。私は「待ってました。」とばかりに申し込むと町内外から集まった教師、主婦、会社員、観光協会職員、町職員など、山や自然、花などに興味のある10人あまり



秋の自然観察の様子

の人たちと赤坂山の植物の調査をすることになりました。花の開花期間を考えると、2週間に一度のペースで12kmのコースを歩かなければならず、2500分の1の地図に植物の位置を落とし、写真を撮り、図鑑で調べながら、すぐわからないものは標本を持ち帰り同定をする（生物の分類上の所属や種名を決める）という作業を2年間続けました。

結果的にこれが植物の名前を覚えるのに非常に役立ちました。編集委員のメンバーは2年間自分たちの足で調査し、編集し、出来上がった「赤坂山の自然ガイドブック」に満足感と達成感でいっぱいでした。2年間調べた赤坂山には誰よりも愛着心が湧き、この愛着心は自分たちで赤坂山の自然を守らなければならないという使命感にもつながっていきました。

ガイドブックが出来上がった平成10年には、赤坂山の豊かな自然を将来に引き継いでいくために多くの人にその素晴らしさを知ってもらおうとNPO「マキノ自然観察倶楽部」を設立し、活動を始めました。

資格取得と実践

自然の素晴らしさを広めるためには、一人でも多くの人に知ってもらおうのが良いわけで、そうすると対象は山に登る中高年だけでなく、若い女性や子どもなど

にも広がってきます。そのためには対象に合わせた説明の仕方はもちろんですが、何よりも正確な情報を伝えなければなりません。そして、説明を聞いた人に「なるほど」と思ってもらうためには、信頼してもらえることが不可欠です。その信頼は自称ではなく、資格に裏付けされることで、より信頼性が高まると考えた私はさらに自然に関する資格の取得に努めることにしました。

私はその際資格さえ取れば良いというのではなく、自己流ではない常に基礎を踏まえた正確な知識を身につけることが重要であるとの考えから、これまでも講座や教室、通信教育などを受けてきたのですが、自然の場合も同様の考えから養成講座や通信教育などを受けるようにしました。これまでも書道や絵画、スキューに水泳、テニス、ゴルフなど、どれも上達しても教室や通信教育などで基礎を確認し、さらに上を目指してきたのです。

自然について理解を深めるものということで、まず森林インストラクターの資格取得のための通信教育を受けながら、同じ年に、地域、特にマキノの豊かな自然や歴史など地域資源を活かし、農業者体験を通じて都市と地方との交流を深め、観光振興、地域振興を進めるためのグリーン・ツーリズムのインストラクターの資格を取得しました。

こうして、これまでに取った資格は、

自然の中へ入ろうとする人に自然の素晴らしさを案内する。自然観察指導員、自然の中で五感を使ったゲームを通じて自然のふしぎや仕組みを伝える。ネイチャーゲームリーダー、森を利用する人に森や林業などに関する知識を伝え、森の中の野外活動や森の案内などを行う。森林インストラクター、前述のグリーン・ツーリズムインストラクター、ストックを使ってウォーキングを行う。ノルディックウォーキングインストラクター、森の人を癒す力を活かして森への案内と訪れた人の心と体の健康の維持・増進を支



双眼鏡の使い方を指導することもあります

援する。森林セラピスト、マキノ地域での体験型観光を進めるための参考として国内旅行業務取扱管理者などです。

どれも見る人が見れば資格というほどのものではないかもしれませんが、これらの資格取得をそれまでにその分野や範囲について学習した知識などの量と理解度をはかる尺度と考えると、ここまで自分が興味あることに知識が増えた、今度はずっとその知識を深めようとさらに意欲が湧いてくるものです。

しかし、これらの資格はあくまで自然に触れる人を増やすためのきっかけづくりの手段やツールでしかありませんから、この資格を取得するために行った勉強、その過程が大切であり、それを活かす実践の場がなくてはただの知的満足に終わってしまいます。何よりも身につけた知識や技能を実践で使わなければなりません。実践で使えてこそ充実感ややりがいにつながるのですから。

興味を活かして地域に貢献

現在、私はボランティアでマキノ自然観察倶楽部の事務局を担っています。平成10年からかれこれ12年になります。赤坂山を中心としてマキノの豊かな自然や歴史、文化を一人でも多くの人に知ってもらい、将来に引き継いでいこうとの思いから活動内容、範囲は増えていく一方

です。現在は、マキノへ自然を求めて訪れた人を案内する赤坂山の自然観察会をはじめ、赤坂山などの植物等自然の状況を確認するモニタリング、マキノ地域で行われるイベントでの体験メニューの運営などを行っています。

また、これも平成8年からなのですが、マキノのまちづくりにも取り組んできたこともあり、マキノの自然や歴史、文化などの地域資源を活かしてマキノの地域振興に役立てたいとマキノ自然観察倶楽部の活動との連携を図った活動にも参加しています。マキノが昭和はじめから観光による地域振興に努めてきたこともあり、マキノの資源を活かした体験型観光を進める活動です。

平成16年度から始めた体験型観光の取り組みでは平成17年度にマキノ里湖(さとうみ)体験ツアー協議会を設立し、私がおの会長を務めてきました。これについては平成20年度に環境省主催の「エコツーリズム大賞特別賞」を受賞しました。平成21年度にはマキノで観光振興やまちづくりのために立ち上げられたこれまでのいくつかの協議会等を一つの窓口として担う事務局、マキノツーリズムオフィスができたところです。ここでは観光振興に必要な地域資源の再発見やガイドの養成等を実施していますが、そのガイド養成、自然案内養成講座の講師も私が毎月務めています。



スノーシュートレッキングなども行います

もちろん自治会の役員や兼業農家としての稲作なども手を抜くことなく行っており、周りからは大変じゃないかと言われますが、本人はそれによってまた学習できることが増えると好奇心と充実感でいっぱいです。

広がった人間関係と現場感覚

滋賀県庁に勤めていると人間関係はどうしても職域に限定されてしまいがちです。休日には地域での行事や自分の趣味を通じて人間関係はある程度広がります

が、活動を始めてからはとにかく職域以外の人との人間関係が広がっていききました。

人間関係の広がりは活動を通じての大きな成果の一つです。赤坂山の自然保護のためには地域の人たちにどれだけその自然の豊かさを理解してもらうかが重要な鍵になってきます。そのため、地域を巻き込み赤坂山の自然保護に共感していただけるように仕掛けていくようにするのですが、活動の広がりはそれ以上に人間関係の広がり、人とのつながりをあらゆる方向に広げてくれました。地域で出会い、あいさつをする人が多いことで、何だか地域に受け入れられているという満足感、充足感を感じられるようになりました。

また、活動を行うことは現場感覚を体験し、磨くことに大きな成果があったと思っっています。小さなNPOでも多くの人にどのようになれば自然に対する理解を深めてもらえるのか、人材をどう養成しようか、どのようにすれば体験ツアーに参加する人たちに喜び、満足してもらえるのかなどを常に考えながら活動しているわけですから、必然的に現場感覚が身につくことになりました。

このような経験をしていると、職場で例えばコンサルタント会社の提案等があっても、この会社は現場がわかってないなど思うこともしばしばあります。行政

の仕事に携わっていると、市民、県民はどう考えているのか、現場では実際どのようなことが求められているのかということが常に課題になってくるわけですが、NPOや地域で相手がある活動していると顧客満足度というのは当たり前のことですから、知らず知らずにそのような感覚が身につくことになると思っています。

今後の活動

さて、私自身、他の人よりは少し自然について知っているつもりですが、まだまだ自然は奥深いものです。自然は、私たちに素晴らしい風景や景観を見せてくれるだけでなく、森や里、湖、海などの生きものを育み、また長い歴史の中で私たちの生活と結びつき地域独自の地域資源と呼べるものを創造してきました。

私は常々行政職員が自分の住んでいる地域だけでいいですから、その地域の地域資源に目を向け、活かすための活動にプライベートで参加してあげれば、そして全ての行政職員がそのような活動に関わってくれば、全国はどこもさらに素晴らしい地域になっていくと考えています。

私がそんなきっかけになれるよう、さらに自然を通じた地域資源を活かした取り組みに関わっていきたいと考えています。何といたっても自然の中での活動が私のライフワークですから。